

評価の視点を 具体的な子供の学びの姿から考える

POINT 1 評価の視点に基づいた「具体的な子供の学びの姿」を想像する

学習指導要領解説では、評価の視点として主に2つの視点が示されています。それらを見取るためには、次のような「具体的な子供の学びの姿」を想像することが大切です。そして、自己を見つめ物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を構想していきます。

①多面的・多角的な見方へと発展させているか

- ・ねらいとする道徳的価値を様々な面から考えている
- ・道徳的価値を支える様々な根拠を考えている
- ・様々な登場人物の立場で考えている
- ・時間の経過とともに変化する気持ちを考えている
- ・人間の弱さや強さ等を捉えて考えている
- ・自分と違う意見や立場を捉えて考えている

②自分自身との関わりの中で深めているか

- ・教材の登場人物を自分に置き換えて考えている
- ・教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている
- ・日常や学校生活等を想起しながら考えている
- ・自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている
- ・自分だったらどうするか考えている

例えば……



親切について多面的・多角的に考えさせたいな。登場人物が取った行動をどう思うか考えさせる中で、気付かせていこう。

声をかけずに見守っていた登場人物の行動をどう思いますか。

相手のことを考えて注意してあげる親切もあるから、相手の気持ちを考えてとった行動なら、声をかけなくても親切な行動だと思うよ。



やっぱり、声をかけて助けあげることが大切だと思う。でも、声をかけるって勇気がいるよね。ぼくは、なかなかできないもん。親切な行動には相手のことを考えるということが大切なのかも。

POINT 2 子供の学びの姿を見取る（具体的な評価の方法）

評価は、個々の教師が個人として行うのではなく、学校として組織的・計画的に取り組むことが重要です。取組の蓄積と定着が、評価の妥当性、信頼性等の担保につながります。

ノートやワークシート

授業の振り返りを見取りやすい方法の一つです。さらに、学期末や学年末に学習したことを振り返ることで、自己の成長に気付くことができます。

【ワークシート記述（例）】

*自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている例

ぼくもこれまでルールを守らなかったことがたくさんありました。でも、今日の授業を通して、そんな自分がはずかしいと思いました。だからもう、ルールを守らないことはしないようにしようと思いました。

自己評価や相互評価

児童の学びの傾向の把握や、授業改善の資料として役に立ちます。ノートやワークシートに位置付け、活用している例が多くあります。

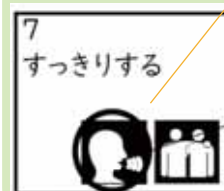
チームによる評価

相互に授業を参観し、他の教師と協力して行う評価の一つです。児童の新たな一面を見ることができ、児童をより多面的・多角的に把握することができます。

エピソード記録

指導者が、座席表やノート等に児童の学習状況を記録していく方法です。毎時間全員を記録していくことは難しいので、計画的に学習状況を見取ることが大切です。

【座席表（例）】



つばやきやグループ活動等のアイコンを位置付け、顕著にあらわれた活動に○を付ける。

2学年

「すなおにのびのびと」

【A-（2）正直，誠実】

道徳科実践事例

教材名 子だぬき ポン（学研「みんなのどうとく2年」）

評価の視点

- ・弱さも含め、時間の経過とともに変化するポンの気持ちを、多面的・多角的に考えていたか。
- ・素直に伸び伸びと生活することのよさについて、自分の生活を見つめ、自分なりの考えを深めていたか。



POINT1 具体的な子供の学びを想像し、学習指導過程を構想する

□多面的・多角的な見方へと発展させる姿

- ① 時間の経過とともに変化するポンの気持ちを考えているか
- ② ポンの心の弱さを捉えて考えているか

□自分自身との関わりの中で深める姿

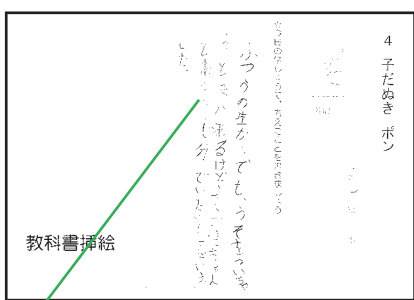
- ③ 自分の生活を見つめ、振り返りながら考えているか

正直に謝ることのできたポンの気持ちについて「ぼかぼかした」とつぶやいた児童がいた。「今までは嘘をついていたけれど、気持ちが変わった」「『ごめんね』って言えたからすっきりした」と、これまでのポンの言動から変化があったことに気付いていた。（多面的・多角的な見方へと発展させている）

展開 ↓ ①時間の経過とともに変化するポンの気持ちを考える過程	2 教材「子だぬき ポン」（前半）を読んで考える。 ○ポくんは、どうして嘘をついてしまったのでしょうか。 ②ポンの弱さを捉えて考える発問 3 後半を読んで、ポンの気持ちを考える。 ○嘘が見つかってしまいそうなポくんはどんな気持ちでしょう。 ◎ポくんは、この後どうしたと思いますか。役割演技をして、ポんくんの気持ちを考えましょう。 ③自分の生活を見つめ、振り返りながら考える活動	予想される児童の発言も多面的・多角的に考える。 ・自分のことを自慢したかったから。 ・みんなに羨ましいと思われたかった。 ・家にこなければ大丈夫と思っていた。 ・怒られちゃう。 ・困った。どうしよう……。 【友達（スタートのセリフ）】 「ポくん、どうしたの」 【ポくん】 「嘘をついてごめんなさい。みんなに自慢したかったんだ」 「ぼく悪いことしちゃった。ごめんなさい」	□紙芝居形式で教材を読む。 □ポンの気持ちの変容に気付かせるため、ポんが嘘をつく場面で一度止める。 □ポんくんの気持ちに寄り添い、誰でも軽い気持ちで嘘をついてしまったことがあることを共有する。 ◆嘘を言ったり、ごまかしてしまったりしたポんくんの気持ちを考えている。（発言） 具体的な評価の視点（方法） ◆嘘をついてしまったことを正直に認めることのできたポんくんの気持ち、嘘をつかれた友達の気持ちについて、自分の経験も踏まえながら、多面的・多角的に考えている。（役割演技、発言）
	↓ 具体的な評価の視点（方法）		

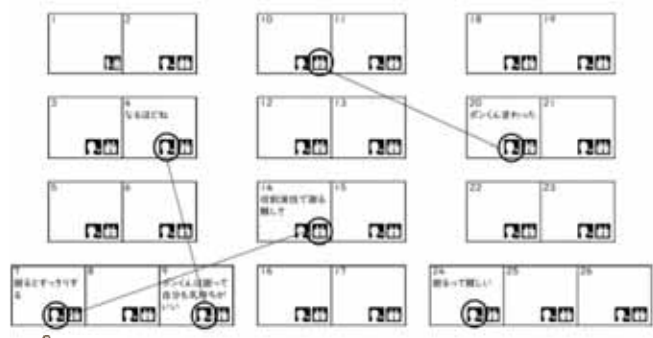
（指導案一部抜粋）

POINT2 ワークシートや座席表を用いて子供の学びの姿を見取る



Check!
 ワークシートは、全ての発問で書かせるのではなく、使用する意図をもち、書かせる場面を選択しましょう。

ポんのおもひの姿を考えると通して、いけないことをしてしまったときにはその身を認め、あやまることのよさについて、素直に伸び伸びと生活しようとする態度を育む。



Check!
 座席表は、発言やつぶやき、活動の様子だけではなく、他の児童の意見に対する反応や様子について線や矢印等で表すことで、他者との関わりを見取ることができます。

- 多面的・多角的な見方へと発展させている児童の感想
 「〇〇さんの意見を聞いて、いけないことをしたときに謝ると気持ちがすっきりすることが分かった」
 「正直に謝って、難しいと思った」
- 自分自身との関わりの中で深めている児童の感想
 「普通の生活でも嘘をついちゃうときがあるけど、最後はちゃんと謝る自分でいたいと思った」